

房野君を偲んで

ガネフォ会

森 宏 次

((株)もりけん)

私が京都の山城高校2年生になった時、当時の水泳部は新3年生でレギュラーになる人が居なくて、我々新2年生が10名程でした。そこへ新1年生が5～6名水泳部に入部して来ました。

その中に、身体の大きい生徒が居ましたが、それが「房野康滋君」でした。彼は、肩幅が広く平泳ぎが得意でした。また、立ち泳ぎを見ていると、1年生の中で一番上手でした。水面から身体を上げる事も出来て、「こいつはゴールキーパーとして使えるぞ」と思いました。

その後、ゴールキーパーの練習をやらせた所、期待に応えてボールをよく止めました。

昭和31年(1956年)の山城高校水泳部は、3年生が誰も居ないチームで、2年生から成るチームに一人だけ1年生の房野君がゴールキーパーに入りました。そのようなメンバーでも京都府の大会では決勝まで進むことが出来ました。しかし房野君が2年生になった昭和32年(1957年)は、キーパーの房野君以外は、全員3年生でしたから山城高校は京都府で優勝し、静岡県浜松市で開催された「第10回国民体育大会」にも出場し、準優勝の成績を納めました。

これ以降は、「ガネフォ55周年記念誌」にも書いてありますが、房野

君は山城高校卒業後、当時水球の名門校である「日本大学」へ進学し、高学年になってからは、日本を代表するゴールキーパーに成長し、ユニバーシアード・ブルガリア大会に日本代表として出場しました。

そして、社会人になってからは、インドネシアで開催された「ガネフォ」(新興国スポーツ大会)に出場し、日本チームのゴールを守りました。それから2年後の1965年に房野君は、ヨーロッパへ武者修行に出かけ、それから3年後の1968年12月にスペインの女性と結婚し長女・長男 2人の子供を授かりました。今は孫も居ります。

房野君はスペインで水泳指導員をしながら、市民の為のプール建設に尽力した事で、完成したプールの5コースに「YASUJI FUSANO」のプレートが付けられる程、地元で尽くした偉い奴です。

また、スペイン水泳界のプロコーチをしながら日本水球界との交流を深め、日本とスペインの架け橋となり、水球チームや若い水球選手の交流を積極的に進め、日本水球界のレベルアップに貢献した大変偉い奴です。

また、1992年、スペインで開催された第25回バルセロナオリンピック(200m平泳ぎで、岩崎恭子が金メダル獲得)では、日本選手団の古橋廣之進団長の付き添い役を務め、日本の水泳選手団全般のお世話を引き受け、日本水泳チームを丸ごと世話する大活躍をした、とても偉い奴です。

「偉い奴ほど早く逝く」のでしょうか？ スペインで新型コロナが感染し

始めた2020年3月30日に亡くなったとの知らせがありました。

そして、奥様のペピータさんが、2023年8月に房野と同じ新型コロナで亡くなったとの話を聞きました。二人共私よりも早くに天国へ行き本当に残念でなりません。ご冥福をお祈り致します。

写真の前列左端が房野康滋君（1年生の夏）です。



山城高校の水泳部

後列左から田中、村上（本郷）

前列左から房野、森（私）